

# 研究所だより

第 128 号 令和 5 年 5 月

発行：草津市立教育研究所

## 「不登校支援の拡充を図ります！」

草津市立教育研究所 所長 木村 弘子

今年度は、やまびこ上笠教室オープンのため、2名増員の他、異動も含め新しく4名の職員を迎え新体制で教育研究所をスタートし、早一月が経ちます。

5月1日には教育委員の皆様をはじめ、市内の小中学校から多くの校長先生も参加いただき、やまびこ上笠教室の開室式を行いました。草津市でも不登校児童生徒数が増加しており、やまびこ青地教室の通所人数が増えていることや、立地面で青地教室に通所できなかった子どもたちの居場所を確保したいとの思いから、新しくJA 笠縫支店店舗2階にやまびこ上笠教室を開室しました。ぜひ、一度ご覧いただき、学校に行きにくい子どもたちの通いの場の一つとして、ご活用いただければ幸いです。

また、やまびこ青地・上笠教室にマルチメディア学習ソフト「天神」を導入しました。問題を解く前に動画授業を視聴し、自分のペースで学習ができます。不登校児童生徒を、やまびこ教室および学習ソフトの利用とつなげていくことで、より効果的な支援をしていきたいと願っています。

昨年度実施しました、「不登校の子どもたちの保護者の集い」は、今年度も実施予定です。これまで通り、不登校児童生徒の社会的自立をめざし、学校を始め様々な関係機関と連携しながら、支援を行います。

さて、教育研究所の主要事業の一つ教員研修として、夏期研修講座を行っているところですが、令和4年5月18日に公布された「教育公務員特例法及び教育職員免許法の一部を改正する法律」

および令和4年6月21日に通知のあった「教育公務員特例法及び教育職員免許法の一部を改正する法律等の施行について（通知）」により、

教員ごとに「研修等に関する記録」を作成することが制度化されました。ICTを活用したオンライン研修の実施などの工夫をしながら、主体的な資質向上・能力開発の機会となりますよう、多数の講座を準備し、先生方のご参加をお待ちしております。

また、不登校の未然防止や早期発見に向けて、教育研究所のスーパーバイザーによるモニタリングを実施し、先生方を支援します。お気軽にご相談ください。

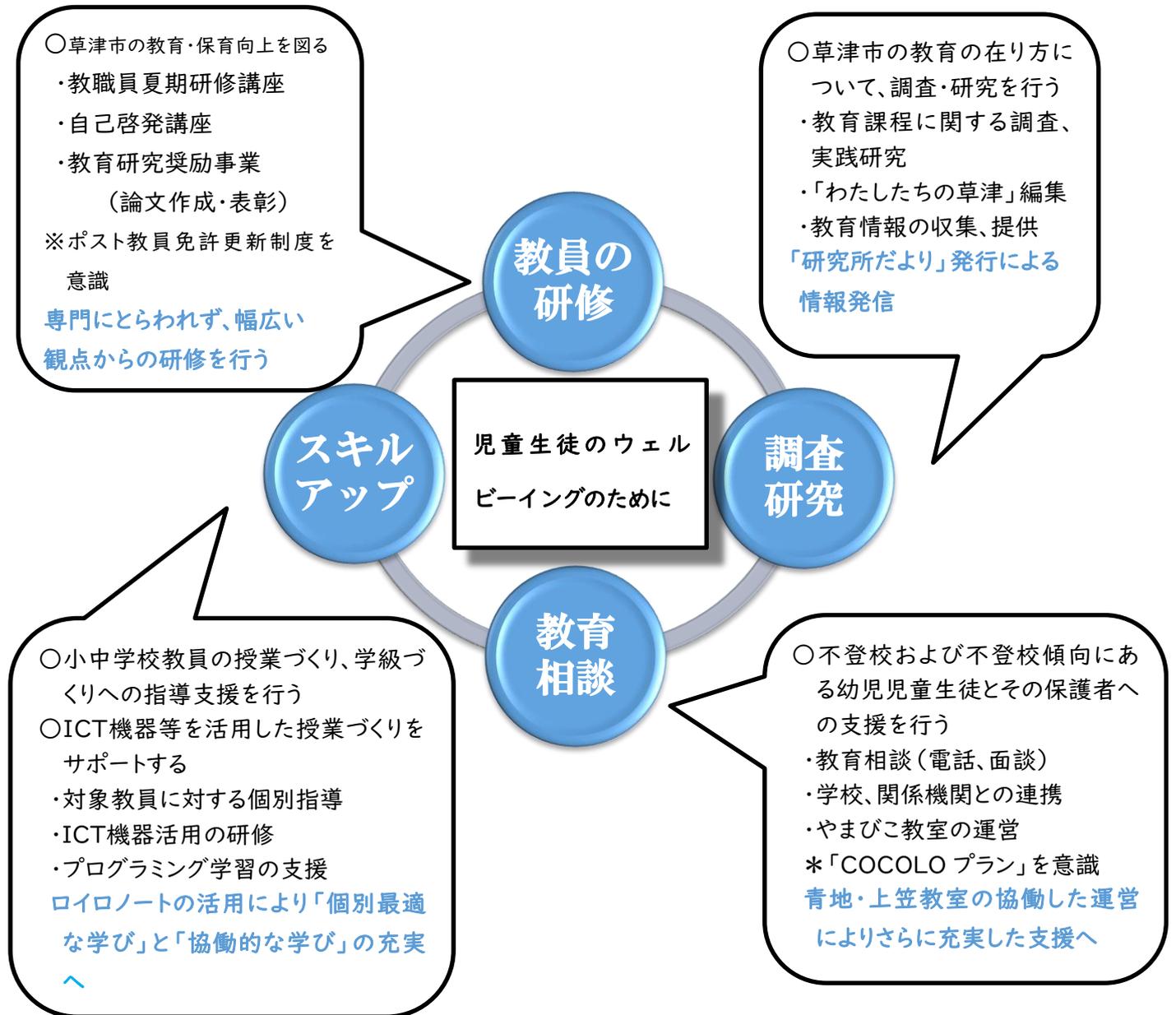
他にも、教育関連書籍の貸出を行っておりますので、お電話いただければ通送で借りていただくことができます。

最後になりましたが、不登校児童生徒への支援の充実、教育研究所は学び続ける先生方への支援に「チーム研究所」として真摯に取り組んでまいります。

皆様のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。



# 令和5年度草津市立教育研究所 理念図



# 令和5年度 教育研究所事業紹介

## 研究奨励事業

- ・昨年度、小学校・中学校・こども園、保育所より45点の応募がありました。本年度も3部門（ステップアップ研究部門、フレッシュ研究部門、就学前教育研究部門）で実施し、教育研究のより一層の広がりをめざします。
- ・すべての所、園、学校からのご応募をお待ちしています。要項をよく読んで応募してください。



## 研修講座

- ・夏季休業中（7/24～8/4）に夏期研修を行う予定をしています。オンラインによる参加もできるように工夫していきたくと思います。
  - ・夏季休業中（8/2）には、研究所にて研究発表大会を開催します。
  - ・実技を中心とした自己啓発講座も実施予定です。（音楽・図画工作・体育・教育相談等）
- ※講座内容・講師などは、決まり次第、詳細をお知らせいたします。

## 調査研究

### 【教育課程に関する調査・実践研究】

「スタディ・ログ」を活かして自ら学びを調整する子を育てる算数授業  
～「個別最適な学び」と「協働的な学び」という観点から学習活動を工夫して～  
をテーマに、研究協力校（志津南小学校、南笠東小学校）にて調査・実践研究を進めていきます。



### 【地域教材に関する調査・研究】

- ・小学校3・4年生向け社会科副読本「わたしたちの草津」の編集委員会を立ち上げ、今年度はワークシート・評価テストの作成を行うための調査・研究を行います。

## スキルアップ事業

- ・担当学校を訪問し、授業づくりや学級づくりなどに関する個別指導やグループ指導を行います。また、全校・学年別・教科別などの授業研究会を通して、学校全体の指導力の向上を目指します。

### 小学校担当

清水 康行（志津・志津南・渋川・矢倉・玉川・笠縫・常盤）  
山崎 賢（草津・草津第二・老上・老上西・南笠東・山田・笠縫東）

### 中学校担当

木村 弘子（すべての中学校）

### ICT担当

仲野 忠克（すべての小・中学校）

私たちがよろしくお祈いします！

所長：木村 弘子  
指導主事：岡崎 仁志  
研究員：杉本 久美香



## 教科書展示会のお知らせ

期間 6月2日(金)～6月30日(金)

火～土 10:00～18:45

\*最終日は、～14:00まで  
(日・月・祝日は休室)

場所 UDCBK(野路一、西友南草津店1階)

# やまびこだより

草津市では不登校対策が喫緊の課題となっています。教育支援センター（やまびこ教育相談室）では「不登校等、児童生徒への支援の充実」をスローガンにSSW（スクールソーシャルワーカー）を継続配置するとともに、今年度新たに「上笠教室」を開設し、スタッフを増員して市内各学校、園との綿密な連携のもと、児童生徒、保護者へのさらなる支援の充実、強化をめざします。

## やまびこ教育相談

さまざまな悩みを抱えている子どもや保護者は、安心できる場所で自身の思いを語り、少しずつ現状を客観視できるようになります。相談者自身が本来持っている力を発揮し、解決に向けての方向性を見出していけるよう一緒に考え支援します。

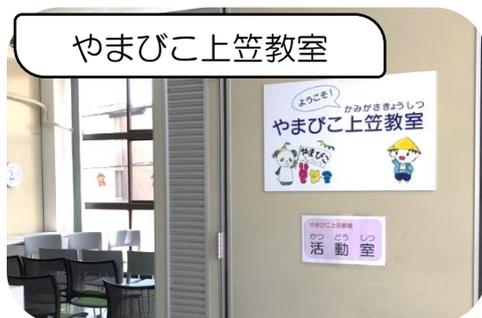


教育相談室

（写真は青地教室）

子どもが自分の思いを適切な言葉で語れない場合、遊びなどを通して相談員との心の交流を図り、気持ちが自由に表出されるよう支援します。結果的に子どもの心が癒され情緒が安定するようになります。ここからやまびこ教室へ繋がっていきます。

やまびこ上笠教室



## やまびこ教室

『やまびこ教室』は、学校に行きにくい状態にある子どもたちが学校復帰や社会的自立を目指してさまざまな活動に取り組みます。令和5年5月1日から新たに「上笠教室」を開設し、スタッフを増員して「青地教室」と併せて、さらなる支援の充実、強化を図っていきます。



やまびこ青地教室

## スタッフ紹介



中谷 仁彦  
（青地教室）



西澤 留美子  
（青地教室）



藤井 弘美  
（青地教室）



沢本 まゆ子  
（青地教室）



角 玲子  
（上笠教室）



小川 絹子  
（上笠教室）



恒松 睦美  
（SSW）



SSWの先生はこんなことをされています。

- ① 学校不適応児童生徒の状況把握をし、その児童生徒が置かれた環境への働きかけ
- ② 学校と関係機関等とのネットワークの構築、連携・調整を行います。
- ③ 校内チーム体制の構築、支援を行います。
- ④ 保護者、教職員等に対する支援・相談・情報提供を行います。
- ⑤ 教職員等への研修活動を行います。

福祉の専門家です！

## K君の成長

K君は未就学の頃から対人関係のトラブルが絶えない子でした。保育園時代は、友だちに会うと嬉しくてその子に噛みついていました。自分の興味のあるものに突進するので、人や物にぶつかることや、人の物を取り上げてしまうことが多々ありました。小学生になってからも、友だちとふざけているとすぐに限度を超えて相手を怒らせてしまいました。「さすがにこれは言えないな」と皆（多数）が思う言葉を大声で言って場の空気を凍らせることも日常茶飯事でした。「良い（と本人が思う）事」を思いつくと、居ても立っても居られなくなって周囲の状況を考えずに手足が動いてしまう。友だちに注意されると「なんでいつも僕ばかり!!」と逆切れする。両親も学校の先生もK君が幼い頃から口が酸っぱくなるほどに「人に迷惑をない!」「人の嫌がることをしない!」「人の気持ちを考えて!」と言いつつ、本人には全く聞く耳がないように見え、言動が変わる様子はありませんでした。それどころか、「どうせ僕はダメだ…」「どうせまた僕が悪いんやろ…」と、どんどんと態度は頑なになり、自己肯定感が下がり、小学校高学年頃から学校に登校できなくなっていきました。周囲には彼が反抗的で、怠けている様に見えました。

発達検査をするとIQ128という結果が出ました。ただし、一番数値の高い「言語理解」と一番低い「ワーキングメモリ」の点数差は30以上ありました。病院での診断はASD（自閉症スペクトラム）とADHD（注意欠陥多動症）の併存とのことでした。K君は、反抗していたのでも怠けていたわけでもありません。特性が強い彼は、いつもいたって真面目に頑張っているのです、何故、皆から怒られるのか、嫌がられるのか、楽しいはずのことが残念な結果に終わるのか…全く分かっていなかったのです。また、ハイパーなエネルギーが彼を突き動かして、自分で自分を押さえることが出来なかったのです。

K君に必要なことは厳しく怒られることではなく、「この人は僕の味方だ」という先生への信頼と安心、そして目の前の状況を分かるように解説してくれる懇切丁寧な説明でした。自分では空気も読めないし、多数派の感じ方や考えは分かりません。でも、それを心穏やかな中で丁寧に説明してもらおうと理屈は理解できます。それが分かると本人のできることが増えます。

少しずつ周囲が彼の特性を理解し始めた後も、そう簡単にトラブルがなくなったわけではありません。でも、中学生になって、学校と関係機関との連携のもと、適切な支援や関わりが進められ、K君は「どうも素のままの自分をぶつけると上手くいかないらしい」ということに気づき始めました。テンションが上がり切る前に冷静になれる環境に身を置くことや「これくらい分かっているだろう」と思う事を丁寧に解説してもらうこと、人の助けを借りることにより、「上手くいく経験」を積み上げて、K君は少しずつ自分を知り、処し方を学んでいきました。受験勉強を頑張り、希望していた工業高校に進学しました。そして、K君はこの春から大学生になりました。「自分の（趣味の）世界を深めるために技術を得たいねん！でも、ちゃんと就職につながる資格も取るわな。」と、大学生活への抱負を語ってくれました。

シリーズ

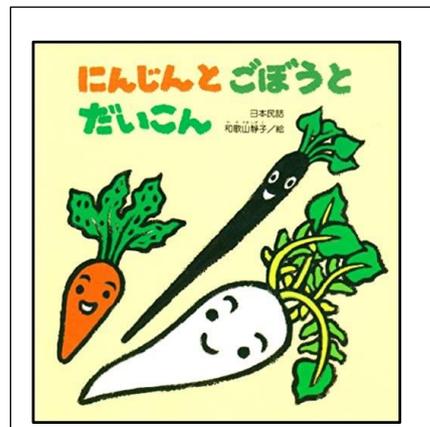
# 司書さんおすすめの絵本



『にんじんとごぼうとだいこん』 和歌山 静子／絵 鈴木出版

大きく育ったにんじん、ごぼう、だいこんは、みんなでお風呂を沸かして一緒に入ることになります。お風呂に入っている様子を見ていると、どうしてにんじんが赤くて、ごぼうが黒くて、だいこんが白いのか分かる、野菜の色の由来を描いた日本民話です。

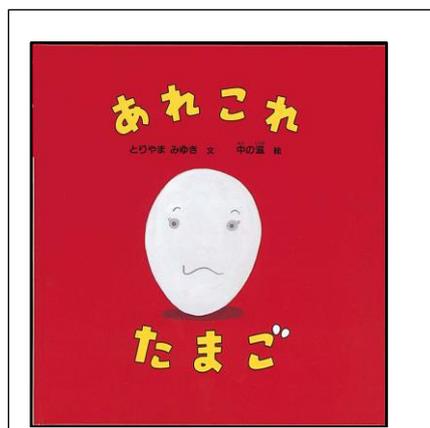
言葉のリズムや響きが心地よく、見開きの頁に描かれた絵は遠目でも見やすく、民話に初めて触れる子どもたちにもおすすめです。



『あれこれたまご』 とりやま みゆき／文 中の 滋／絵 福音館書店

スーパーでパックに入って並んでいる卵は、みんなおしゃべり好きで、おいしい料理に変身したいという夢があります。買われた卵は、冷蔵庫に入れられた後、ホットケーキやマヨネーズ、天ぷらなどいろいろな料理に変身します。

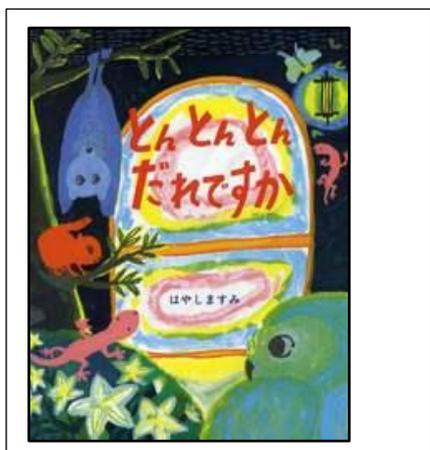
コテコテな関西弁の卵の語りが特徴的で、テンポよく物語が進んでいきます。どんな料理に変身するのかワクワクした気持ちを味わうことができ、身近な食材である卵の魅力が感じられる絵本です。



『とんとんとんだれですか』 はやし ますみ／作・絵 岩崎書店

ある夜の出来事です。丘にある一軒の家に、「とんとんとん」とドアをノックする音がします。さて、誰がやってきたのでしょうか。いろいろな楽器を持った動物たちがやってきます。

ドアのガラスに映る影をヒントにして、誰がやってきたのか想像しながら、子どもたちと掛け合いができる楽しい絵本です。ガラスに映る影は鬼やガイコツなどに見えるので、実物とのギャップがおもしろいです。



読み聞かせなどに、ご活用ください

このシリーズは、市立図書館の司書さんのご協力を得て作成しています。

